

「金目川水系流域ネットワーク」は、平成9年3月に策定された神奈川県「かながわ新総合計画21」に、源を発しています。

この計画の中で、湘南地域は「海とみどりの生活文化都市」を目指すものとされ、これを実現する方策の一つとして「海とみどりのネットワークの推進」が掲げられました。

「金目川水系流域ネットワーク」は、まさにこの「海とみどりのネットワーク」を具体化するためのモデル事業として、平成11年7月に神奈川県湘南地区行政センターを事務局とし、県機関や関係市町がメンバーとなって、検討が開始されました。

この年には、金目川流域の地域資源をとりまとめた「資料集」を発行したり、「ミニフォーラム」を開催するなどの活動が行われています。

平成12年度には、流域で活動している市民団体や関係市町をメンバーとする「準備会」が立ち上がりとともに、「金目川水系流域の人・水・みどりを考える」をテーマにした県民集会の開催、また、「金目川水系流域マップ」を発行するなど、ネットワーク発足に向けた機運が盛り上がりしてきました。

そして、平成13年5月に準備会のメンバーを核にした「世話人会」が発足し、6月に現在の「金目川水系流域ネットワーク」が正式に活動を開始したのでした。

金目川水系流域ネットワークの活動実績
(平成13年度～平成15年度)

「金目川水系せせらぎ通信」の発行
通算8号(臨時増刊号含む)

「金目川水系水辺ウォーキング」の開催
通算8回
平塚大橋下流のサギのねぐら入り見学
秦野市金目川源流を訪ねて
大磯町照ヶ崎海岸を訪ねて
伊勢原市善波地区を訪ねて
秦野市四十八瀬川流域を訪ねて
秦野市水無川流域を訪ねて
中井町巖島湿生公園を訪ねて
松田町やどりき水源林を訪ねて

「金目川水系流域フォーラム」の開催
通算2回(2003, 2004)

「金目川水系流域マップ」の発行

金目川水系流域ネットワークは、神奈川県湘南地区行政センターが事務局機能を担当していた3年間が終了することに伴い、2004年4月1日から市民有志が事務局を担当しながら新たに出発します。連絡先等につきましては、当ネットワークからお知らせする予定です。

金目川水系 **せせらぎ通信** Vol.7

編集：金目川水系流域ネットワーク世話人会 発行：神奈川県湘南地区行政センター 発行日：2004年3月19日

今回研修ウォーキングで訪ねたのは、金目川水系の西隣、酒匂川水系の支流、中津川の源流「やどりき水源林」です。私たちの豊かな生活を支える森林の働きを、実地で見るとに適した地形の森林です。



やどりき水源林



管理棟



ムササビが食べたスギの実



※「かながわ水源の森林づくり(神奈川県)」から引用

水源の森林(もり)づくり

水源地域の森林を元気で活力のある状態に保ち、次の世代に引き継いでいくために、神奈川県では平成9年度から県民の参加、協力を得ながら「水源の森林(もり)づくり」に取り組んでいます。

【交通案内】

JR松田駅および小田急新松田駅より寄(やどりき)行きバス約20分、終点より徒歩35分
車：東名高速大井松田ICから約20分
※林内および周辺には一般車両用の駐車施設はありませんのでご了承ください。

松田町

「やどりき水源林」を訪ねました

2003年
11月15日

知ってる? 知りたい!...流域のこと その七



Q 川にいる生き物の種類で、川の水のきれいさが分かるって本当?

A 本当です。一番水のきれいな川の上流部などでは、サワガニやプラナリア、カワゲラ、カゲロウ、トビケラなどの幼虫が普通に見られます。水が少し汚れてくると、カワゲラ類がいなくなり、シオカラトンボのヤゴ、ヒラタドROMシ、ユスリカの幼虫、モノアラガイ、ミズムシなどが見られるようになります。汚れがひどくなると、たいていの生き物はすめなくなり、イトミミズや赤いユスリカの幼虫などのわずかな種類の生き物しか見つからなくなります。このように、水のきれいさとそこにすめる生き物の種類は、おおよそ決まっています、その目印になる生き物を指標生物と呼んでいます。

●行政センター主催での通信の発行は、今回でいよいよ最後となりました。今まで案内していただいた場所や、皆さまの気持ちも少しも伝わったつもりです。ご協力いただいた方々、本当にありがとうございました。(藤吉)
●フォーラム2004分科会で流田川の「桜まつり」を紹介しましたが、4月3日から5日、午後6時から9時まで鷹匠橋近くの桜をライトアップ。夜桜を楽しめます。お出かけください。(嘉悦)
●ネットワーク設立準備から関わって、あっという間に5年近くの歳月が流れた。マップ作成や通信の編集、発行作業に携われたことは貴重な財産となった。行政から自立し、新たな出発となるネットワーク。ゼロからの挑戦。お世話になりました。(二見)

編集後記

お知らせ 下記(ネットワークの窓口)へのお問い合わせは、2004年(平成16年)3月31日までとなります。

<ネットワークの窓口>

神奈川県湘南地区行政センター企画調整課
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-1
TEL 0463-22-2711 内線212~214 FAX 0463-23-0599
E-mail shonanac.0024.kikaku@pref.kanagawa.jp

★情報誌の編集スタッフ募集

金目川水系流域ネットワーク世話人会では、一緒にこの通信を作ってくださいのスタッフの方を募集しています。興味のある方、やってみようと思われ方は、左記のネットワークの窓口へまでご連絡ください。



環境省認定の環境情報誌です



かながわ水源の森林づくり「やどりき水源林」



一口メモ

やどりき水源林は、水源の保護とともに、その大切さを知らせたり調べたりする実験林として、神奈川県が平成11年に取得しました。酒匂川水系の中津川の寄沢（やどりきさわ）を中心とした扇形の集水地形約530haには、スギ、ヒノキの人工林と広葉樹からなる天然林があります。

「かながわの美林50選」にも選ばれており、県民参加の水源の森づくり活動の拠点として整備が進められています。

当日は、水源林内のスギ、ヒノキ人工林の中を巡る周遊歩道を、現地で活動されている森林インストラクターの宮本さんに案内していただき、神奈川県の森林の現状や、下層の植物と動物との関わりなどを写真を交えて、説明していただきました。

水源の森林づくりで思うこと

神奈川県森林インストラクター 宮本 聡

「やどりき水源林」は丹沢山塊の捨岳—雨山—鍋割山—栗ノ木洞を結ぶ稜線の森林に降る雨水が寄沢に注ぐエリアで、水源涵養モデル林として神奈川県民参加による森林づくりの途上にある水源林です。

森林は“緑のダム”とも言われますが、水源涵養の最も重要なポイントは、土壌への水の浸透と貯水（保水）にあります。したがって、水源の森林づくりは「豊かな土壌づくり」にあると言っても過言ではないと思います。豊かな土壌とは有機質リッチな土壌のことで、その有機質は主に落ち葉によって生成します。落ち葉はそれを食する多くの生物のすみかとなって、徐々に分解（食）されて有機質土壌になっていきます。涵養力の優れた水源林は多様な生物に恵まれ、流出する水は清澄で養分も適切で、多様な水生生物が棲息する由縁です。



神奈川県森林インストラクターは「県民参加の森林づくり運動」推進のために、その先導役として県が養成・認定したボランティアです。やどりき水源林については、毎週日曜日午後1時より、観察希望者に案内役を務めております。どうぞご利用ください。



豊かな森は、豊かな土を生み、そこから流れ出たきれいな水には、様々な生き物が命をつなっています。

大切なのは土づくりです



森林インストラクターと一緒に観察しよう

水源林内では、シカ、カモシカ、ムササビ、リス、ヤマネ、ウサギ、テン（糞のみ確認）、ツキノワグマなどが生息しているようです。水源林内を案内してくれるのは、かながわ森林インストラクターの会の方々（20名以上）で、年間100回近くの観察会を分担して行っているようです。動物、植物、水生生物、土壌生物、新しいルートの開拓など、得意の分野で、調査を行い、今後水源林をどのようにしていったらよいかなど、研究されているようです。

現地では、野生生物保護のほか、河原でのバーベキューも禁止です。従来のレクリエーションという考えではなく、森林の機能や現状、生き物とのかかわりなどを森林インストラクターと一緒に楽しく学んでみることでできる場所です。

小さな生き物たち

川の中の生き物探しでは、小さな網で石の間をちょっとガサガサすくうだけで、清流に棲むトビケラやカワゲラ、カゲロウの幼虫をたくさん見ることができました。

他にも、サワガニやブラナリア、カジカなど、多様な生き物が見られるそうです。



多彩で活力ある森林づくり

水源涵養機能など森林が持つ様々な機能を高めるために、枝打ち、間伐などの手入れを行い、樹齢100年以上の木々が茂る巨木林、スギ・ヒノキの人工林と土地本来の広葉樹が入り混じる混交林、スギ・ヒノキの間伐後に幼樹を植林し、樹齢の異なった上下2層構成の被層林、土地本来の多様な樹種で構成される広葉樹林など、多彩な森林づくりがなされています。



手入れの行き届いたスギ林



カンアオイの仲間

水源の森林（もり）づくりは、城山ダム、宮ヶ瀬ダム及び三保ダムの上流を中心とした約60,800haを対象として、その中の私有林約40,200haの70%について、公的管理・支援を行っています。（「かながわ水源の森林づくり」から引用）



マツカゼソウ

シカの影響

森林の下層の植生は、水源林に生育するシカの好みの影響を強く受けているようです。森林内のあちこちで、丸く刈り込まれたコアカソなどの低木を目にしました。それらは、シカが好んで食べる植物であるということでした。反対に、シカの好まないミツマタやミヤマシキミ、マツカゼソウ、オオバノイノモトソウなどは繁茂していました。



オオバノイノモトソウ



水源の森から流れ出た水は冷たく澄んでいました

巨木林

巨木林とは、樹齢100年以上の樹木からなる森林です。現在、樹齢約80年生のスギ、ヒノキ林ですが、管理種付近のヒノキ林は「かながわの美林50選」に選ばれています。間伐や枝打ち等の整備を進め、より水源かん養機能の高い巨木林を目指します。

被層林

被層林とは、スギ、ヒノキなどの上木とスギ、ヒノキ、コナラ、クスギなどの下木が層になっている森林です。択伐、間伐、枝打ちを強度に行い、空いたところに下木を補植し、より水源かん養機能の高い被層林を目指します。

混交林

混交林とはスギや、ヒノキなど針葉樹とケヤキやコナラなど広葉樹が混じった森林です。スギやヒノキの林を間伐し、空いたところに広葉樹を育て、より水源かん養機能の高い混交林を目指します。

広葉樹林

広葉樹林とはブナ、イタヤカエデ、クスギなど広葉樹の森林です。枯死木の伐採や、丸太橋等による土壌の保全を行い、活力ある森林に整備して、より水源かん養機能の高い広葉樹林を目指します。

「かながわ水源の森林づくり」から引用

やどりき水源 参加者の感想

紅葉の里山、澄んだ流れの沢や川は、一枚の絵のようでした。粘土やパイ皮のようにもろく崩れる石やささらした土が入り混じった土地の面白さと思慮、ここには多様な種類の動植物が生息しているのですね。インストラクターの先生には、植物の名前等詳しく教えていただきました。この時期の青い葉の中には、シカの食に適さないものもあるということです。また、自然を守るための山道のロープを、けもの道を寸断されて不便なのが、シカたちが切ってしまうらしいとのこと。林の見学のあとは、川の中の生き物探しです。想像以上の魚や貝、川虫が清流の中に見られました。参加者の中には、学生さんたちもいらっちゃって、若い人たちが少しでも水の大切さや自然を守る大事さを知ってくださることは本当にうれしいですね。

シカの食害の話は聞いたことがあったが、草がほぼすべて食べつくされているのを実際見て驚いた。禁止されていた川原での焚き火のあとがいくつかあったのが残念だった。

だが、川原での焚き火は小さい子供にいい影響を与えると思うので、川の近くにドラム缶などを使って焚き火ができるころがあるといいのではと思った。

